



原子力産業新聞

2011年11月17日

平成23年(第2599号)

毎週木曜日発行

購読料1年分前金(消費税、国内送料込)

会費 9,500円(1部220円)

非会費 15,000円(1部350円)

(当会会費は年会費13万円に本紙購読料の9,500円を含む。1口1部)

発行所 日本原子力産業協会

〒105-8605 東京都港区虎ノ門1丁目2番8号 虎ノ門琴平タワー9階 郵便振替 00150-5-5895
電話 03(6812)7103 FAX03(6812)7110 ホームページ <http://www.jaif.or.jp/> メールアドレス shinbun@jaif.or.jp

昭和31年3月12日第三種郵便物認可

鈴木原子力委員長代理が説明 将来建設の120万kW級で

原子力コスト、政府委員会で本格検討

他電源と比較し、年内に閣僚会議に報告



政府のエネルギー・環境委員会の「コスト等検証委員会」(委員長 石田勝之・内閣府副大臣)は十五日、東京・霞が関の第四合同庁舎で、原子力発電の建設費を他の電源と同様に八〇、七〇、六〇、五〇、一〇〇%核動年数は四十年、三十年、建設費は三十五万円/kW、廃炉処理費用六百八十億円、人件費、修繕費など運転維持費などの数値を示した。

委員からは、原子力はベースロードなので設備利用率一〇〇%は試算からはずしてもいいのではないかと、稼働年数などはOEC Dでは六十年との試算もある。また一部しか算入されて

り、せめて五十年は試算すべき、廃炉費用は本場にこの額でいいのか電力会社に問い合せすべき、などの意見が出された。

原子力維持で議論

総合エネ調「国民的関心高い」

経済産業省の総合資源エネルギー調査会・基本問題委員会(委員長 三村明夫・新日本製鉄会長)は九日、原子力の社会的・技術的リスク、暮らしの視点から見たエネルギー・ベストミックスを中心に、委員からプレゼンテーションを受け議論した。

冒頭、枝野幸男経産相が過去二回開かれた同委員会のインターネットライブ中継には三万件を超すアクセスがあったことなど、エネルギー問題への国民的関心が高いことを述べ、有意義な議論がなされるよう期待した。プレゼンテーションでは、田中知氏(東京大学)

が、原子力の技術的・社会的リスクと安全性確保に関する課題を整理し、エネルギー政策と技術立国としての観点から、日本が原子力を推進する意義を述べた上で、「三〇年以降も一定規模で原子力を維持することが適切ではないか」と、将来のベストミックスについての考察を示した。リスクに関しては、先に原子力委員会がまとめた事故コスト評価や、米国の共

いなど意見が出された。今後、さらに事務局で精査して、次回合会検討する予定。また、同日の議題となっていた「原子力発電の追加的安全対策費用等について」は次回二十五日に審議することになった。当日配布された資料の中では、福島事故以降に採られた全国の原子力発電所の追加的安全対策費用は、サンプルプラン

の平均値で、約百九十億円となっている。二十五日はこの他、各電源の共通事項を検討することになっており、十一月中には検討結果を取りまとめ、関係閣僚によるエネルギー・環境会議に報告する計画だ。

なお今国会から、内閣官房の国家戦略室ホームページからインターネットで同時中継が実施されるようになった。

現状モデル(再処理五〇%、中間貯蔵後に再処理五〇%)のコストは一kWh当たり一・三九円となった。これを前回試算を行った〇四年時点と比較すると、ウラン燃料コストは上昇したが、再処理時期が三年から二〇年に遅れたことから、割引率三%の場合、現在価値換算の結果、コストが同〇・〇八円安くなった。

コストの感度解析の結果、燃料サイクルコストを支配するコスト成分は、再処理コストとウラン価格であり、埋処処分コストは、それほど大きな影響力をもたないことが分かったとした。

一方、原子力発電の将来リスク対応費用の算出に当たっては、福島第一原発事故を受けて、事故リスクを算出した。算定に当たっては、「損害期待値」の考え方を採用した。損害期待値は、損害費用に事故発生頻度を掛け、総発電量で除したもので、総発電量は福島事故の発生頻度を除したもので、一kWh当たり〇・〇〇六円、〇・〇〇八円となった。

七年前試算より若干減

原子力委 燃料サイクルコスト試算

原子力委員会は十日、政府のエネルギー・環境委員会の「コスト等検証委員会」から検討を依頼された原子力発電の燃料サイクル費用②原子力発電の将来リスク対応費用①の考え方・算出について、検討してきた原子力発電・核燃料サイクルコストを試算。使用済み燃料の一部を中間貯蔵したのちに再処理する

には「国民的関心は高い」として、資源制約のないエネルギーへの転換を目指す。八田達夫氏(大阪大学)は、原子力発電で発生する費用の利用者負担の考えに立ち、使用済み燃料処分や事故時の損害賠償の費用などから、原子力政策については「費用と便益を再評価して根本的に見直すべき」と指摘した。

次回合会は、十八日に、ファン・デル・フーフェンIEA事務局長を招き、国際情勢とベストミックスについて、議論する予定。

ロシア側が日露協定に期待表明
外相会談
玄葉光一郎外相は十一日、ホノルルAPECに出席した際、ロシアのラヴロフ外相と会談した。席上、ロシア側から、日本の現臨時国会に批准のため上程されている日露原子力協力協定について、早期締結に向けた期待が表明された。

この一週間の出来事

(10日(木)~16日(水))

- 中電、浜岡原発の防波壁本体に着工(11日)
- 近大研究炉が臨界50周年(11日)
- 福島第一事故現場を記者団に初公開(12日)

原産新聞の紙面から

- 国内ニュース
 - 廃棄物処理・除染の基本方針、閣議決定(2面)
 - 保安院が公開でストレステスト審査(2面)
 - 総合科技会議改組に向け、研究会始動(2面)
 - 8町村住民73%が条件付きで戻ると回答(4面)
- 海外ニュース
 - IEAが「世界エネルギー予測」刊行(3面)
 - 韓国がベトナムの原子力計画に協力(3面)
 - 英国政府、大型鋳造品業者に融資(3面)

Flexible & Powerful

未来に向かって柔らかくたくましく発展する。

耐放射線性に優れたゴム材料

放射線環境におけるゴム材料の耐久性を向上する事により

- 超高濃度放射線レベルでの使用が可能
- 部品交換頻度・作業被ばく量の低減
- 設備機器の信頼性向上
- 豊富な製品ラインナップ
(シート・パッキン・シール材etc.)

耐放射線環境ゴムの種類と特徴について

| 区分 | ゴムの種類 | 特徴 | 使用温度範囲(目安) | 耐放射線確認レベル |
|---------|-------|---|------------|-----------|
| 100シリーズ | EPDM系 | 機械的強度に優れた材料です。 | -35~90℃ | 8MGy |
| 300シリーズ | EPDM系 | 汎用で適用範囲の広い材料です。 | -35~90℃ | 20MGy |
| 500シリーズ | EPDM系 | 高真空系の材料に適しています。アウトガス特性はフッ素ゴム同等以上の機能を有しています。 | -50~100℃ | 1.2MGy |
| 700シリーズ | BR系 | 2液室温硬化タイプの不定型シール材です。 | -20~70℃ | 2.6MGy |
| 800シリーズ | ブチル系 | 粘着及び水密性に優れた材料です。 | -30~70℃ | 1MGy |
| 900シリーズ | アクリル系 | 耐熱、耐油用途に適しています。 | -20~130℃ | 2MGy |

耐放射線環境ゴムの研究開発は、独立行政法人 日本原子力研究開発機構との共同成果です。

●この製品に関するお問い合わせは E-mail:info04@hrc.co.jp

●耐放射線性に優れたゴムに関しては早川ゴムのホームページを参照してください。 <http://www.hrc.co.jp>

早川ゴム株式会社

東京支店内 耐放射線環境ゴム推進チーム
〒135-0031 東京都江東区佐賀1-16-10
TEL. 03-3642-1180 FAX. 03-3643-6288